

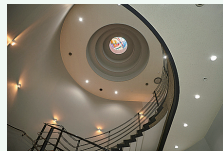


日本社会事業大学は、
2026年(令和8年)11月に創立80周年を迎えます

【大学周年事業のご紹介】



記念式典



記念シンポジウム



特設展示

創立80周年
記念特設サイトは
こちらから



<https://www.jcsw.ac.jp/80th/>



80年史編集



記念特設サイト



特別寄付の募集



・卒業生集まれ！
「同期生・寮生・サークル等のホームカミング交流会」

【同窓会の取り組み】

同窓会では、在校生・卒業生が一体となって企画を
進行しています。



証言：日本社会事業大学80年

～社大の発展とともに歩んだ同窓生の活動記録～

創立から現在まで日本社会事業大学の福祉教育に携わった80人の証言集を作成します。
各年代の同窓生の実践活動、大学とのつながりなど社大に対する熱い想いとにじみのメ
モリアル写真が満載された一冊です。

【大学の80周年記念募金】

同窓会では母校が行う「創立80周年記念事業寄附」に賛同しますので、同窓生の皆様のご協力、ご支援をお願いいたします。

母校・日本社会事業大学「創立80周年記念事業寄附」協力をお願い

同窓生のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶
び申し上げます。

同窓会は近年、コロナ禍で停滞してしまった福祉現場の交流を再
び活性化すべく、支部セミナーや在学生との交流会の開催に鋭意取
組んでいます。支部セミナーは2022年度から、奈良を皮切りに、岩
手・静岡・埼玉・茨城・佐賀・愛媛・大阪の各地で開催してまいりまし
た。また、学内学会に合わせて在学生との交流会も開催しており、昨
年度は同窓会4支部と19法人・団体が母校に集まり、在学生と交流
を深めています。

しかしながら、社会福祉を取り巻く状況は厳しさを増しており、とり
わけ人材不足への対応は焦眉の課題となっています。全国の福祉系
大学で入学者数が減少してきており、このままでは福祉現場が大き
な危機にさらされると、多くの同窓生がお感じになっておられるの
ではないでしょうか。母校もこうした状況の例外ではなく、近年は往時

のように新入生を迎えることができなくなっておりますが、こういう時
こそ卒業生が母校を盛り立て、社会福祉の明るい未来を切り拓いて
いきたいと思っています。

そうした折、来年11月9日、母校は創立80周年を迎えます。これを機
に、「創立80周年記念事業寄附」を募り、学生の教育・研究の質の向
上に資する支援や環境整備を行いたいとのことです。これまでも同
窓会と母校は相互に協力しながら、在学生と卒業生を支え合ってき
ました。母校のさらなる発展を応援することで、将来の福祉人材を育
てていく、ひいては福祉現場の難局を乗り越えていくために、同窓会
もこの取組に協力したいと思います。

母校校歌の一節「社会の福祉誰が任ぞ」の精神を後進につないで
いくために、同窓生のみなさまのご支援、ご協力をいただきますよう
お願いいたします。

日本社会事業大学同窓会
会長 竹田 幹雄

社大の未来に、想いをつなぐ

創立80周年記念事業の取り組み

社大同窓会

2025
vol. 96

同窓会×大学
パートナーシップ推進

3月14日

学位授与式(卒業式)

社大の卒業生で
あることを誇りに



同窓会から卒業証書・学位記ホルダーを贈呈しました



社会福祉学部・大学院社会福祉学研究科・大学院福祉マネジメント研究科の卒業生・修了生が、日本社会事業大学での学びや経験を胸に巣立っていきました

▶卒業生の皆様へのメッセージカード◀



厳しい冬の寒さも和らぎ、穏やかな春の訪れを感じられる今日の良き日に、卒業および修了の日を迎えられました皆様在校生活を代表し、心よりお祝い申し上げます。

四季折々の情景を映し出すこの清瀬という地で過ごした日々。私自身、先輩方と過ごした日々を振り返ると、思い出と感謝で胸がいっぱいになります。そんな日々は時に順風満帆ではなく、喜び、悩み、葛藤と様々な感情が共にあったと思います。そのような気配を見せることなく授業やサークル、生活の悩みに至るまで様々な場面で優しく寄り添っていただいたことを印象深く覚えています。

さて、これから先輩方が進んでいく社会は混沌とした時代を迎えているかと思えます。霧がかかったように先の見えない混沌とした社会が高い壁としてそびえ立ちます。ですが、私は先輩方なら険しい壁をのりこえ晴れやかな社会を臨むことができるのだと思います。なぜぞ

知識や価値、実践力で人と人がつながり、協働していく

う思うのか。この二年間で先輩方の「つながり、共に立ち上がる」姿を私は多くみてきたからです。壁は決して一人で乗り越えなくてもよい。知識や価値、実践力で人と人がつながり、協働していくことで壁をのりこえることができます。先輩方はこの大学で磨いた人間力という価値を活かし、新たな取り組みを始めたり、積極的に後輩を巻き込んで活動に励んだり、だれかと手を取り合い、時に手をさしのべながら大学生活を歩まれてきたことと思います。そんな先輩方の手は、きっと自身の、周囲の人々の、そしてあたたかな社会の“繋ぎ手”となることができます。そう強く願います。

先輩方がご卒業されることは大変喜ばしいことです。しかし先輩方と過ごした日々に思いをはせると寂しいとも感じます。いつの日か私たちと再会する折には、つながり、共に立ち上がる仲間として、社会への一筋の光を見出す勇気を持てたらうれしいです。

最後になりましたが、改めてご卒業おめでとうございます。そして、本当にお世話になりました。共に大学生活を過ごすことができたことが誇りです。卒業生の皆様のご心身のご健康と益々のご活躍を心よりお祈りして、送辞とさせていただきます。

3月14日 在校生代表 石井結莉(学生自治会)



4月4日

入学式

明日の福祉の
担い手はここち



学生広報プロジェクト/
新入生に投票をお願いしました
出身地は? 学生食堂
で楽しみなメニューは?



4月1日

サークル説明会



同窓会社会福祉セミナープロジェクト 開催報告

四国セミナー

1月25日(土)

会場:えひめ共済会館
(松山市)



実践報告/坂井さん(香川県立丸亀病院)
有村大学教授
実践報告/水口さん(西予市社会福祉協議会)



交流茶話会

大阪セミナー

5月24日(土)

会場:アウィーナ大阪
(大阪市天王寺区)



基調講演/曾根客員教授



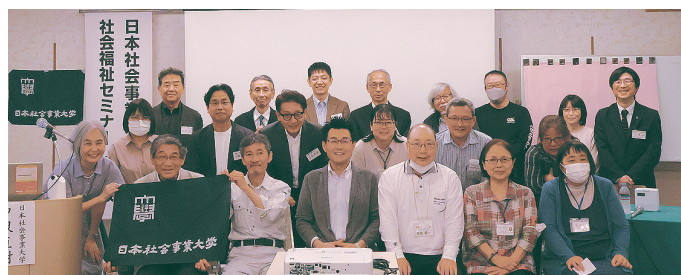
大阪府スタッフメンバー



座談会「すべての人々の包括的支援を考える」



番外編
「こんな社大生もいた」



同期会開催報告

11月2日

83年度生同窓会

I'm Fine



日本青年館ホテル(新宿区) 6年振りの再会
参加者36人
ジャズシンガー 大越康子さんによるミニライブ

12月7日

82年度生(学部26期)同期会



ラ・ブーレット(渋谷区神宮前)
学び舎があった原宿にて

1月10日

79年度生同窓会



美味門横丁(品川駅)
関東甲信地区中心に12人
8年振りに旧交

学部5期 同期会

卒後60周年同期会 小石川後樂園(文京区)



4月15日
卒後60周年記念同期会を、都立「小石川後樂園・涵徳亭」を会場として開催しました。前年の同期会後の、「我々に残されている時間は多くはない。今後、毎年、時期と会場を固定して開催しよう」との幹事会における申し合わせに基づく企画でした。参加者は前回より3名少ない20名でした。遠くは高松から、交通機関遅延に心折れそうになるのを乗り越えての参加者も。

集いは、幹事代表の挨拶と、恒例となっている永眠者を偲ぶでの黙祷、乾杯で始まりました。大半の時間は、会食をしながら、記念写真の撮影も間にはさんで、昔話も織り交ぜての近況の報告を中心に、全員のスピーチ。親しく交わった同期の仲間の一人を、悲しくも開催当日の朝に天国に送ったことも報告されました。前回同様、近況は、出欠返信者からはがきに寄せられたメッセージ集も別途配られました。

時間が残り名残を惜しむ人は、引き続き同会場にて二次会での交わりを深めました。

幹事・石井喜代子、白井利明、常友陽子、並木信一、
矢口富士夫・山本欣司(代表)、吉本 昇。(並木信一記)



社大キャンパスで、 楽しく交流できる場づくりを 地域の未来につなぐ 世代間交流

子どもから高齢者まで、気兼ねなく訪れることができる憩いの場をつくりたい。そんな発想から社大キャンパスで、楽しく交流できる場づくりがはじまっています。(以下、大学HP・インフォメーションより)

□農的空間を活用した多世代交流の取り組み/ 農的空間創出(新農福連携)プロジェクト

5月～シニアクラブ(竹水会:竹丘老人いこいの家)と近隣の保育園(清瀬市第7 保育園)の園児の皆さんとサツマイモの苗の植え付けを行いました。多世代交流同好会メンバー等が作ったレイズドベッド(ベンチ栽培)を活用。秋の収穫祭で焼き芋をする予定です!【大学中庭】

活動風景

レイズドベッドに
サツマイモ苗
植え付け



サツマイモの苗を植え付けました



みんなでレイズドベッドに水やり



6月 アクティブ福祉in東京'25で奨励賞受章
(左から)石井さん、門脇さん・木下さん

□保育園児との交流イベント/「Re Lien 同好会」・「多世代交流同好会」

5月、保育園児が楽しめるように、年齢に合わせた活動内容を検討し、楽しい時間を共有しました。【大学教学棟】

□イベント終了後、保育園の先生から「初めて社大に入ると、すぐワクワクしていた子どもたち。実際にたくさんのお兄さんとお姉さんたちと遊ぶことができ、とっても楽しんでいました。」と嬉しいメッセージをいただきました。



「まねっこゲーム」は、お手本の学生の動きを園児にまねっこしてもらうゲーム



「ボール入れゲーム」は、ブルーシートにあけた穴にボールを投げ入れてもらうゲーム

活動風景

第7保育園との
交流会

□Re Lien 企画担当者からのコメント

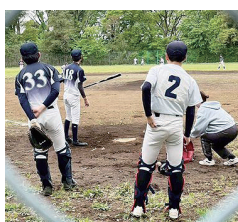
Re Lien(リリアン)は「再びつながる絆」という意味で、地域貢献・地域交流を目的とした活動を行っている同好会です。保育園・障がい者施設などでのボランティアやイベントの企画・運営。これらの活動を通じて、大学生と地域の交流を促進するとともに、学生一人ひとりが他者理解やコミュニケーション能力を高め、ボランティアを通じた自己成長を目指しています。(福祉計画学科3年木下敬登・Re Lien/多世代交流同好会メンバー)

□清瀬第二中学校野球部との交流活動/ 準硬式野球部

活動風景



清瀬第二中学校野球部との合同練習・交流試合



4月、当日は和やかな雰囲気の中で技術指導や合同練習が行われました。大学生が中学生にアドバイスする場面や、ともにプレーを楽しむ姿が見られ、年齢を超えた絆が育まれました。今後も継続して交流活動を行っていく予定。【野球グラウンド】

母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

子ども食堂で地域のつながりをつくる

誰もとりこぼさない社会づくり

無料や低額で食事を提供する「子ども食堂」が全国で1万カ所を超えた。コロナ禍や物価高の逆境でも、世代を超えた地域の「居場所」として浸透してきた背景がある。子ども食堂のネットワークづくりなどをするNPO法人「全国子ども食堂支援センター・むす

びえ」が2024年12月11日発表した。子ども食堂を「子どもが一人でも安心して行ける無料または低額の食堂」と定義して調査し、今年度は全国1万866カ所と過去最多となった。子ども食堂の現状と日本社会事業大学在校生の活動について紹介する。

子ども食堂の急増 全国1万カ所以上

「子ども食堂」とは、子どもが一人でも行ける無料または低額の食堂です。地域食堂「みんな食堂」という名称のこともあります。子ども食堂は民間初の自主的・自発的な取り組みです。そのため運営を支援する公的な制度などが整備されていないにもかかわらず、子ども食堂の数は増加の一途をたどり、今では全国の公立中学校数を超える約1万カ所にのぼっています。

子ども食堂は、月1回開催のところから365日3食を提供しているところまで、数人を対象としているところから毎回数百人が集まるところまで、実に多様です。

目的も、おなかをすかせた子どもへの食事提供から、孤食の解消、地域交流の場づくりと、さまざまです。コロナ禍において、子ども食堂は居場所としての開催は難しくなりましたが、それでも日頃からのつながりを生かし、お弁当や食材等の配布などのフードパントリーの活動などにかえ、子ども、子育て世帯等とのつながりを守り、活動を続けています。

子ども食堂の広がりとともに、各県単位で子ども食堂を支援するネットワーク団体が立ち上がり、子ども食堂を応援したいという企業・団体の方たちも増えてきました。（認定NPO法人全国子ども食堂支援センターHPより）

世代を超えた「居場所」に 官民も支援

子ども食堂は2012年に東京都大田区で八百屋を営んでいた女性がボラ

ンティアで食事を提供した活動が始まりとされます。個人や企業、NPO法人など運営主体は多様で国や自治体の補助金、民間の助成金、寄付、食料品の寄贈などを活用しているところが多い。

10年代は、貧困対策の側面だけが注目されがちでしたが、次第に高齢者の健康や地域のにぎわいづくり、虐待予防などの役割も果たすようになってきました。上記の2024年12月11日発表の「むすびえ」の調査では、子ども食堂の7割が「年齢や属性などによる参加制限を設けていない」と答えています。

全国約1万8千ある公立小学校区内に子ども食堂がある割合を示す「充足率」は全国平均で34・66%。自治体の予算や運営主体の広がりによって道府県によって10～60%と開きがあります。

充足率が約62%と全国で最も高い沖縄県。15年の県の調査では、貧困率が全国平均の約2倍（29・9%）という結果が出た。16年には県が30億円の「子どもの貧困対策推進基金」を作り、内閣府も10億円を出した。それらを原資に各市町村が子ども食堂の立ち上げなどを支援し24年には361カ所と18年の127カ所から約3倍になった。農林水産省は、学校給食向に配っていた政府備蓄米を20年から子ども食堂にも配っている。子ども家庭庁や厚生労働省も、運営などの助成金を出している。

清瀬市の子ども食堂の現状

清瀬市では、子どもの貧困対策の推進に関する法律が施行された2014年に子ども食堂がスタートしたが、開催場所も地域の集会所や高齢者施設とさまざま。おひさまネットワークの福本麻紀さん（大学ボランティアセンターの20

25ボラカフェ）によると、2025年5月現在の子どもの食堂数はオープン型（広く地域住民に開放）11、クローズ型（特定のニーズに応じた支援、対象を限定）4の市内15カ所に広がっています。清瀬市の人口は約7万5000人で小学校9カ所であり、「充足率」は16・8%ととても高い状況にあります。

日本社会事業大学の関わりと これからの活動について

2019年1月当時は、市内14カ所のうち、2カ所で在校生が活動していた。現在も続いている「ぽかぽか食堂」（社大BBS会・クローズ型、第3水曜日）と「のしお本家食堂」（オープン型・子どもから高齢者まで、野塩老人憩いの家、毎月第4日曜日）学生ボランティア「社大と明治薬科大学」と地元シニアクラブ「むらさき会」が運営。代表は立ち上げ者の社大内田直輝さん（学部60期・2020年卒業）

2025年5月現在では、社大学生ボランティアが「ぽかぽか食堂&グリーンタウン」(グリーンタウン清戸第4木曜日)と学生有志メンバーが「ごはんの会」(そだちのシェアステーションつぼみ 毎週金曜日)で活動しています。社会福祉の実践者をめざす高い志を持った多くの在校生のさらなる参加を期待したい。



「ごはんの会」(そだちのシェアステーションつぼみ /写真は子どもの家HPより)

【社大生の子ども食堂活動】 【学生参加者のコメント】

□BBS会の活動の一つとして行っていました。平成29年1月から子ども食堂をスタートし、月に2回程大学介護棟で行っていたもの。もう一つは地域の集会場で地域の方々と協力しながら運営していた2カ所での活動です。どちらもクローズ型で活動を続けていたがコロナ期間中は活動が止まってしまった。 大須賀 史紀さん(元BBS会代表、学部60期)

□現在、ぽかぽか食堂は、学生ボランティア3～6名、地域の方約4名、幼稚園児から小学生までの子ども約20名で、毎月第4木曜日に開催しています。これまでは中高生を対象に実施していましたが、子どもたちの卒業をきっかけに、今年から新しい形でスタートを切りました。初めての形態に戸惑うこともありますが、地域の皆様のご協力のもと、試行錯誤を重ねています。子どもの参加が多いため、ぽかぽか食堂はいつも活気にあふれています。多世代が交流できる場はとても貴重であり、新鮮で楽しみなが活動に取り組んでいます。 大橋 身友希さん(学生ボランティア3年生)

□普段学生のボランティアとして、一緒に遊んだり、料理を作ったり、そして机を並べてみんなで話しながらご飯を食べて楽しく参加させていただいています。その中でぽかぽか食堂、また地域の方々の温かさというものを強く感じています。単に食事を共にするだけでなく、地域の絆やお互いの助け合いの大切さを実感しています。地域の方々の温かい心や雰囲気に触れ、私自身も成長できる機会をいただいています。これからも地域のつながりをさらに深めていけるよう、取り組んでいきたいと考えています。

八柳 恋さん(学生ボランティア3年生)

【ぽかぽか食堂：笑顔が繋がる居場所】

活動日時：毎月第4木曜日

活動場所：グリーンタウン清戸

代表：大橋身友希、八柳恋

連絡先アドレス：s12230020w@jcsu.ac.jp



ぽかぽか食堂(グリーンタウン清戸)

母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

同窓生が活躍する福祉現場の最前線から

～OB・OG応援メッセージ～

同窓会の『福祉現場で活躍するOB・OGとの交流会』に参加いただいているすぎのこ会を訪問しました。



原点進化 ～原点回帰＞未来進化～
<https://www.suginokokai.or.jp/>

栃木市・日光市で
福祉サービスを
提供し50年



4年間松窓寮に在籍。
会計係を

川田良実さん

栃木県生まれ、2014年卒。サークルは混声合唱団菩提樹に所属。卒業後、当法人に入職。みずほの家で就労支援を3年、その後ひきの杜に配属され、身体障害者の生活支援を行っています。



白井(うすい)絢音さん

栃木県生まれ。2022年卒の入職4年目。保育コースで、木村先生のゼミでした。大学時代は、BBS会に所属したり、子ども食堂に参加したりしていました。また、清瀬市内の放課後等デイサービスでアルバイトをしていました。

卒業式はコロナでオンラインでした

卒の入職4年目。保育コースで、木村先生のゼミでした。大学時代は、BBS会に所属したり、子ども食堂に参加したりしていました。また、清瀬市内の放課後等デイサービスでアルバイトをしていました。



大学封鎖で卒業式が中止に

岩崎操さん

学部10期 1970年度卒業。公務員を退職し、福祉の現場を持ちたいという、夫である岩崎俊雄に連れられて郷里である栃木に戻り、障害当事者や保護者の願いに応えて1976年、すぎのこ学園を建設。文字通りゼロからの出発でした。開設に当たっては仲村優一先生、五味百合子先生他大変なお力添えを頂きました。私はその中で会計事務や周辺の雑務を担ってききましたが、ある時「職業は？」との問い掛けに戸惑ってしまったことを機に50歳過ぎて「社会福祉士」と「精神保健福祉士」の資格を取得しました。常務理事。OA機器に振り回されながら若い事務員さんたちと経理事務に追われています。

Q.皆さんのプロフィールをお聞かせください

Q.入職された理由や仕事の内容は？

すぎのこ会は1975年昭和50年の法人設立。本年創立50周年を迎えた。設立者は、前大学同窓会長であった岩崎俊雄氏(学部10期 1970年卒業)である。1976年4月30名定員の知的障害者更生施設「すぎのこ学園(現：すぎのこ)」を栃木県石船町にオープン。現在は、栃木市・日光市において、児童発達支援、放課後等デイサービス、障害者支援施設グループホーム・就労継続支援B型・ホームヘルプ・相談支援事業、特別養護老人ホーム・デイサービスなど、主に障害者支援を中心に児童期から高齢期まで一人ひとりのライフステージに応じた様々な福祉サービスを提供しています。

白井さん 学生時代の放デイでのアルバイトをきっかけに、障がい分野に興味を持つようになりました。すぎのこ会の就職説明会に参加し、利用者さんの笑顔の写真をみて、ここで働きたいと思い、就職を決めました。現在は入所施設で、利用者さんの食事や入浴などの毎日の生活のサポートをしています。

Q.心がけていること。やりがいなど

岩崎さん 自分が健康でいること。そして利用者の方々と目線を同じにして相手の想いに寄り添いたい心がけてきました。また、相手を尊重しながらも、伝えるべきことは伝えなければならぬと思ってきました。50年の間には、苦しいこと、悲しいこと、自分の力ではどうにもならないことが沢山ありましたが、いつも利用者の方々の温かい眼差しに励まされ、私の方が生かされていることを実感してきました。

川田さん 「二人ひとりに寄り添い、温かさを感じられる支援を心掛けています。いつも〇〇だからと決めつけてルーティーンのようになってしまう支援を行っていたら、利用者の皆さんは「この人は業務的に冷たい人だ」と思い、心を閉めてはくれないでしょう。安心して生活する事も出来ません。小さな変化を見逃さず、一つ一つ丁寧に汲み取り日々の支援に当たっています。

Q.仕事の魅力やこれからの目標など

白井さん 利用者さんの様々な一面を見ることが出来るのが、魅力だと思います。特に、行事や外出を楽しんでいる利用者さんの姿を見ると、職員も自然と笑顔になります。利用者さんが笑顔で、生きがいをもって生活できるように、サポートしていく職員でありたいと思います。

川田さん 日々沢山の気付きがあり、支援の正解が一つではないのだと感じることが魅力です。利用者や職員と積極的に関わり、思いを伝えあうことでより良いケアの方法や、問題解決に繋がる糸口が見つかることがあります。「もっと良くするにはどうすればいいだろう」と

と日々試行錯誤の連続で、良い意味で刺激的な日々を送れます。

Q.同窓会の『OB・OGとの交流会』に参加されてのご感想・意見をお聞かせください

白井さん 学生の皆さんの話を聞いて、懐かしさを感じるとともに、福祉を学んでいた頃の初心を思い出し、改めて気を引き締めることができました。学生の皆さんが熱心に話を聞いてくださり、とても嬉しかったです。

川田さん コロナ禍でのオンライン交流会に参加させて頂きましたが、在学生の皆さんが真剣に話を聞いてくださり、とても充実した時間を過ごせました。昨年から対面での開催となったと聞き、今度は是非直接お話しして、より有意義な意見交換が出来ればと思います。

在校生への応援メッセージ!!

白井さん 『学生時代の経験は必ず役に立ちます!』

学生時代の実習やアルバイトでの経験が実際に現場に出て、役に立ったと感じることが多いです。社大は福祉のバイトやボランティアなどの情報もたくさんあるので、興味を持ったらぜひ参加して、多くの人と関わってみてください。学生時代はあつという間に過ぎてしまうので、悔いのないように楽しんでください!

川田さん 全ての経験が未来の自分の糧になります。

大学生生活中に沢山の人と交流し、様々な経験をしてくださいます。その経験の一つが皆さんの福祉従事者としての力となります。福祉の現場では、視野が狭まって思考が凝り固まってしまうことが、一番良くない事だと思います。見聞を広げて、柔軟な発想力を持って人と向き合えるよう頑張ってください!

岩崎さん 多くのことにチャレンジしてください。

日社大での体験や学習したことはどこかに蓄積されていて、岐路に立った時、ふと蘇ってきて支えてくれます。すぎのこ会の運営を順調に進めることができたのも、設立当初から寝食を共にして働いてくれた同窓生の専門的な支援のおかげであり、すぎのこ会の良き風土、文化として今も継承されています。あの学生会館で語り合い、共に行動した仲間や思い出は大切な宝です。



2025年度 幹事会報告

『忘我の愛と智の灯』のもと
母校のさらなる発展に向け取組を推進

◆2025年度事業計画

『社会の福祉誰が任ぞ』 日本社会事業大学同窓会の組織は、1976(昭和51)年4月に再建され、2026(令和8)年に50年(『母校は創立80周年』)を迎える。同窓会活動については、原宿年代に比べ清瀬年代の同窓生の参加が少ないといった“世代交代の問題”やコロナの長期化等による活動への影響もいまだある中で、同窓生はじめ教職員や在学生その関係者一人ひとりに『社会の福祉誰が任ぞ』が問われる時代が再来している。

『忘我の愛と智の灯』 同窓会は、社会福祉の実践者として『忘我の愛と智の灯』の校歌の下結集し、今後も大学と連携して、社大教育と社会福祉実践をしっかりとつないでいく。在校生への実習現場の提供や就職支援、そのための卒業生のネットワークづくりをさらに推し進めるため(1)同窓会活動のさらなる活性化(2)卒業生と在校生との交流を通じた支援・同窓生間の交流の促進(3)社会福祉セミナーの開催による大学とのパートナーシップの推進等々。同窓会活動の課題解決及び活性化に向けて取り組んでいく。

◀同窓会活動強化のためのキーワード▶

同窓会総登録数 17,644人 清瀬年代(入学・卒業者) 8,438人		会報送付数 8,000部 同窓会の取り組みをもっと身近に
就職・実習・卒研などの 在学生支援 福祉現場で活躍する OB・OGとの交流会 福祉学会・学生支援課とのコラボ企画	日本社会事業大学 同窓会	会費納入者(約1,200人) 同窓会基盤の強化 若い世代の参加推進
社会福祉セミナーの共催 同窓会 × 大学 パートナーシップ推進 創立80周年に向けた取組	修学困難学生に対する支援 五味基金の活用 職場体験応援制度の活用・周知	大学広報活動との連携 母校教育力の向上を目指して 大学講座への参加、協力

大学とのパートナーシップの推進/母校・在校生への支援

- (1)社会福祉セミナーの共催 本セミナーを開催することにより、同窓会活動の活性化と母校の価値向上を図っていく。
【第1回】5月21日大阪セミナー 【第2回】開催地選定中
- (2)同窓生と在校生の交流会 「福祉現場で活躍するOB・OGとの交流会」を6月21日日本社会事業大学×社会福祉学会とのコラボ企画で開催
- (3)職場体験等応援制度の活用・周知 在校生の就職活動や支部セミナーへの交通費を助成
- (4)同窓会「五味基金」による修学困難学生に対する奨学金支給
- (5)創立80周年に向けた取組 卒業生と在校生による実行委員会を推進。大学との協調体制の整備

抽選で5名様に

①『釜ヶ崎に、グランマ号上陸す』 本プレゼント!

宮本信芳さん(学部25期1985年卒・大学男子寮寮寮反対闘争ののち、学生自治会委員長。居酒屋『グランマ号』店主)の最新著書(東方出版、四六判266ページ)



先着10名様に

②同窓会オリジナルの『キャラクタークリアファイル』プレゼント

New version 5枚入りセット

ご希望者は住所・氏名及び「グランマ号」と「クリアファイル」の希望別を次のあて先までご連絡ください。

- 〈郵便の方〉 〒204-8555 清瀬市竹丘3-1-30
日本社会事業大学同窓会
- 〈FAXの方〉 042-496-3051
- 〈E-mailの方〉 kouyu@jcsu.ac.jp

2024年度 日本社会事業大学同窓会収支計算書

2025年度 日本社会事業大学同窓会予算

収入の部 (単位:円)		
科 目	2024年度決算額	2025年度予算額
会費収入	4,035,181	4,500,000
入会金収入	0	30,000
雑収入	1,001,199	50,000
資金積立繰入金(名簿作成費)	400,000	—
前年度繰越金	3,066,230	3,288,393
合 計	8,502,610	7,868,393

【収支差引額】

8,502,610	—	5,214,217	=	3,288,393
(収入決算額)		(支出決算額)		(翌年度繰越額)
◆ 2024年度 一般運営基金現在高				21,083,600
◆ 2024年度 五味基金現在高				16,278,315

支出の部

科 目	2024年度決算額	2025年度予算額
会議費	179,907	250,000
委員会活動費	122,921	200,000
人件費	489,400	700,000
支部強化費	461,794	500,000
機関誌等発行費	2,703,886	3,000,000
支部出張費	108,721	250,000
通信運搬費	243,886	300,000
学内学会助成費	0	100,000
ホームページZOOM関係諸費	161,040	200,000
慶弔費	0	50,000
国際交流推進費	0	50,000
卒業記念品費	229,330	200,000
名簿作成費同窓会補填費	400,000	—
事務局活動費	113,332	300,000
予備費	0	1,768,393
合 計	5,214,217	7,868,393

PHOTO NEWS

3月22日

顧問・正副会長・運営委員等合同会議
/法人・同窓会意見交換会



支部活動の活性化に向けて意見交換

6月21日

2025年度幹事会



母校創立80周年記念事業等を協議

“母校・在校生への支援”のため 会費納入にご協力を

同窓生の皆様には会報に同封されている「同窓会年会費」納入用紙をお使いいただき、同窓会の学生教育支援などへのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。
同窓会会長 竹田幹雄



スマートフォン決済。バーコードをアプリでかざすだけ!

今までと同じ振込用紙で郵便局やコンビニでお振り込みされる他、スマートフォン決済ができます。※「スマートフォン(アプリ決済)」をご利用の場合は、振込用紙裏面をご確認の上ご利用ください。

(終身会員制度について)

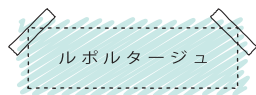
2011年度から「終身会員」(5万円)が設けられ、納入時満年齢60歳以上の方は、「年会費」と選択ができます。「終身会員」として納入される方は、郵便局・ゆうちょ銀行の払込取扱票と払込書兼受領証の金額3000を2本線で抹消し上段に50000と訂正し、「認印」を推して下さい。コンビニエンスストアではお取り扱いできません。

生きる力を身につける！ 学習塾での実践事例



に私は毎日新聞を配っていました。当時の社大生は皆、苦学生ばかりで皆何らかのアルバイトをしながら学生生活を送っていたと思いま

る日の休み時間友人3人で集まり「どこを配っている？」という話になり、一人は日経新聞、一人は読売新聞、ちなみ



現在に至るまでの 私の経歴

真鍋 喜代美
(まなべ きよみ)

学部20期
(1980年卒)



埼玉県出身、日本社会事業大学社会事業学科卒業後、学習塾講師、精神障がい者作業所花工房、東雲女子大学こども心理学科非常勤講師(精神科リハビリテーション学・精神保健福祉援助技術各論)、大島ディサービス勤務。現在は精神障がい者施設社会福祉法人花咲会理事、発達障がい児童を含む学習塾講師、ニチイ学館介護福祉士コース講師などを務める。精神保健福祉士、社会福祉士、介護福祉士。木田賞受賞



発達障がい(当時)の私、この時期、私は初めて発達障がい(当時)の子どもたちと出会いました。何もわからない中で、社大の特に石井哲夫先生に相談しました。先生は、自閉症に関する施設運営をされており生き生きと授業されて多くのことを教授して下さいました。先生が運営していた施設訪問もさせて頂き、特別児童についても個別に丁寧な指導下さいました。その後約20年間、塾教育に携わり、1990年代に義父の介護をきっかけに愛媛県新居浜市へ帰郷しました。

愛媛県新居浜市にて

新居浜市は四国の瀬戸内海側のほぼ中央に位置する人口12万の都市です。帰郷後は、大学講師や社会

す。私はその後家庭教師や塾講師を経験し、在学中に仲間と川口市で補習塾を開設しました。生徒数は増え、最盛期には150人くらいになりました。社大の理念に基づき、母子家庭には授業料を半額としました。この川口地域は全国からの出身者が居住し生活が不安定で、非行対策中心の学校体制で、塾でも不安定な子供たちに寄り添い子供たちの話をよく聞くことを

福祉法人花咲会の立ち上げや施設誘致に携わりました。当時精神障がい者の偏見が強く、病院から退院し社会に適応しようにも受け皿である施設が少なく、偏見の元開設がむずかかった。そこ社大出身の徳永先輩を中心に社医療福祉従事者、家族ボランティアと運営委員会を作り、作業所グループホームなどの場所探し、募金活動、市長を巻き込んだ施設づくり懇談会の下準備などをさせてもらい、結核施設跡地を市より譲り受け運営を開始し、現在10か所の施設を運営している。私は今もその社会福祉法人で理事をさせてもらっています。

夜間には子ども会の知人からの依頼で塾を再開しました。そして新居浜市教育委員会発達支援課からの要請などにより、小学校3年生、高校3年生までの発達障がいや、不登校引きこもりの子どもたちとも関わる機会が増えていきました。塾では、経済的事情に配慮し、市内で最も安い月謝設定を行い、必要に応じて免除もしています。また介護福祉士や社会福祉士、精神保健福祉士を目指す学生や成人も来られています。教育理念は、発想的には幼稚園の概念を作ったフレーベルの発想です。大人の価値観で判断せず、子供の自主性を尊重し、希望が実現できるように助けるです。塾では進路は本人の希望を最優先し自ら決める力を促すため、小学校5年までは塾を重視し、それ以降は友人のように接する「子育ての目標は自立」とい

生きる力をつける！

「生きる力をつける！」これは、文部科学省が1998年ごろに提唱した新しい教育指導要領の

生きる力をつける

- ・出された課題しっかりやる
- ・そうじ、洗濯、料理できる
- ・友人と上手につきあえる
- ・どんな環境でも生き抜ける

理念です。当時、日本では年間3万人を超える自殺者数や70万人近いニート人口が社会問題となっており、私は「どんな環境でも生き抜く力を育てたい」という思いでこの言葉を掲げました。塾では、各学期に料理実習を行っています。(コロナ禍中は中止)生徒たち自身が作りたい料理を話し合い、材料を持ち寄って調理します。作ったレシピは英語に翻訳し、その単語を覚えるという学びも取り

特徴的な支援内容

入れています。また、登山や旅行、イベントに参加なども、生徒たちの話し合いによって決定し、実施しています。

塾には、発達障がいを持つ子どもたちが多く在籍しています。支援方法としては、SST(ソーシャルスキルトレーニング)を中心に相手の気持ちを理解し適切な行動選択を練習します。また、認知行動療法も取り入れています。最近の子どもたちには、心が折れやすく、引きこもりがちになる傾向が見られるため、意識的に「レジャーエンズ(逆境から立ち直る力)を育む取り組みを強化しています。今後も敬意をもって子供たちに接し、個々の才能を十分伸ばし、のびのびと生活していただくことが私たちの使命であると思っています。社大での学びを大切にしながら大切に送っていきたくと願っています。

